

東京医科大学麻酔科専門研修プログラム 2020 年度



1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能のように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

麻酔専門研修の概要

本プログラムは安全で質の高い周術期医療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与するための、麻酔科関連領域の研鑽を積むことを目的とした専門研修プログラムである。将来日本の麻酔科医療を担う人材となり、如何なる事態にも対応のできる自信と麻酔科医療に対する誇りを有する麻酔科医となるべく、専門研修を通じて麻酔科学の基本である麻酔管理学、集中治療医学、ペインクリニック学、緩和医療学の基礎を学び、将来、世界に通用する麻酔科医となり医療貢献するための研修である。

本研修を通じて、麻酔科医にとって不可欠な知識・技術を身につけるだけでなく、医師・看護師・学生への教育指導能力の獲得とチーム医療に携わる者に必要な豊かな人間性やリーダーシップの涵養に努め、プロフェッショナルな麻酔科医になるための研修プログラムを用意している。本研修プログラム終了後に麻酔科専門医を取得し、その後、麻酔科学会指導医、ペインクリニック学会専門医、集中治療医学会専門医、博士号取得を目指す。

麻酔専門研修の目的

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能を修得すること。
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力を備えること。
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣を学ぶ。人への思いやりと医療に対する愛情を有すること。
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心を持つ。弛まぬ努力により知識と技術の向上に努めること「学則不固」をモットーに！リサーチマインドを有すること。
- 5) チーム医療を担うための人格とリーダーシップを有すること。

以上の資質を修得した医師となることを目的とする。

プログラムの特徴

本プログラムにおける麻酔科専門研修では、あらゆる症例に対応できる手術麻酔の研修を受けることが出来る。特殊症例(小児麻酔、心臓血管麻酔、胸部外科麻酔、産科麻酔、脳神経外科麻酔)は、基幹病院である東京医科大学病院のみならず、多様で特色のある専門研修連携施設(計20施設)で更に学ぶ事が出来る。

麻酔関連領域である集中治療研修は、過大侵襲を受けた術後患者や敗血症、ARDSなど重症患者の病態を把握し、エビデンスに基づいた呼吸・循環管理、感染症管理、代謝栄養管理などの全身管理、集中治療の基礎と最先端を学ぶ事が出来る。ICUスタッフと主治医、感染制御部医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士と合同でカンファランスを開き、治療方針の

決定を行う。多職種で呼吸管理や感染症、代謝異常の患者の全身状態を把握する。多職種連携の総合医療である集中治療領域でリーダーシップを学ぶ。

麻酔関連領域であるペインクリニック研修では、とくに診断学を重視する。診察・検査・診断・治療のロードマップをしっかりと引けるような研修を行う。超音波ガイド下神経ブロックやレントゲン透視神経ブロックなどの手技や薬物療法、理学療法、東洋医学、臨床心理学など幅広い診療を学ぶ事が出来る。また、整形外科、リハビリテーション科、神経内科、看護師、臨床心理士と合同カンファランスを行うことで、**多職種連携の医療とチームワークを学ぶ**事が出来る。

麻酔関連領域である緩和医療研修では、増加するがん患者のQOLを向上させるための医療を学ぶ事が出来る。がんと診断されがんの治療している患者と家族の苦痛をトータルペインとして捉え、患者主体のアセスメントを行い、適切な緩和ケアを行うことを学ぶ事が出来る。

到達目標

本研修プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間のうち少なくとも1年間、後半2年間のうち6ヶ月は、基本的に専門研修基幹施設である東京医科大学病院において研修を行う。
- 6ヶ月は、基本的に専門研修連携施設Aである東京医科大学八王子医療センター・東京医科大学茨城医療センターで研修を行うこととする。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。
- 本プログラムにおける麻酔研修期間中の年間の麻酔経験件数は約200例以上を経験する。
- 特殊麻酔研修では、研修内容の充実を図るため本院以外の専門研修連携施設で更なる研修を行う。
- **小児麻酔研修**では、小児領域に特徴のある研修連携施設である、国立成育医療研究センター、埼玉県立小児医療センター、自治医科大学附属病院のいずれかにおいて研修を行う。
- **心臓血管麻酔**では、心臓血管領域に特徴のある研修連携施設である、国立循環器病研究センター、自治医科大学附属病院、自治医科大学附属さいたま医療センター、三井記念病院、ニューハート・ワタナベ国際病院、東京医科大学八王子医療センター、千葉大学医学部附属、病院山形大学医学部附属病院、松波総合病院、立

川総合病院のいずれかにおいて研修を行う。

- **産科麻酔**では、産科麻酔領域に特徴のある研修連携施設である、国立成育医療研究センター、自治医科大学附属病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院のいずれかにおいて研修をおこなう。
- 専門研修基幹施設で研修プログラムをもつ、自治医科大学附属病院、自治医科大学附属さいたま医療センター、順天堂大学医学部附属順天堂医院、千葉大学医学部附属病院、東京女子医科大学病院、三井記念病院、山形大学医学部附属病院、熊本大学医学部附属病院、戸田中央総合病院と連携し共に補い合うことで、**専攻医のニーズに合わせた幅広い麻酔科専門研修**を行うことが出来る。
- すべての領域を網羅するローテーションAを基本とするが、小児麻酔を中心に学びたい者へのローテーション(ローテーション例B)、ペインクリニックを学びたい者へのローテーション(ローテーション例C)、集中治療を中心に学びたい者へのローテーション(ローテーション例D)など、専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する。
- 地域医療の維持のため、最低でも3ヶ月以上は**地域医療支援病院**である、岐阜県の松波総合病院、あるいは埼玉県の埼玉県立小児医療センターで研修を行う。また、プログラム内では基幹施設のある東京都以外に、山形県、茨城県、千葉県、埼玉県、栃木県、岐阜県、熊本県、新潟県、大阪府と幅広い地域に対して**医療貢献するプログラム**としている。

研修実施計画例

コース	A(標準)	B(小児)	C(ペイン)	D(集中治療)
初年度 前期	本院	本院	本院	本院
初年度 後期	本院	本院	本院	本院
2年度 前期	研修連携施設 A または B	本院または 研修連携施設 A	本院または 研修連携施設 A	本院または 研修連携施設 A
2年度 後期	研修連携施設 A または B	小児麻酔研修	本院(ペイン)	本院(集中治療)
3年度 前期	本院または 心臓麻酔研修	本院または 本院(集中治療)	本院または 心臓麻酔研修	本院または 小児麻酔研修
3年度 後期	本院または 小児麻酔研修	本院または 本院(ペイン)	本院または 小児麻酔研修	本院または 心臓麻酔研修
4年度 前期	本院または 本院(ペイン)	本院または 心臓麻酔研修	本院または 本院(ペイン)	本院または 本院(集中治療)

4年度 後期	本院 本院(集中治療)	本院または 研修連携施設 B	本院または 本院(集中治療)	本院または 本院(ペイン)
-----------	----------------	-------------------	-------------------	------------------

週間予定表

本院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	外勤	手術室	休み	カンファ	休み
午後	手術室	手術室	外勤	手術室	術前評価	休み	休み
当直				当直			

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

● 東京医科大学病院

研修プログラム統括責任者: 内野 博之

専門研修指導医: 内野 博之(麻酔, ペインクリニック, 集中治療)

大瀬戸 清茂(ペインクリニック, 麻酔)

田上 正(緩和医療, 麻酔)

今泉 均(集中治療, 麻酔)

中澤 弘一(麻酔, 集中治療)

荻原 幸彦(麻酔, 集中治療)

福井 秀公(ペインクリニック, 麻酔)

柿沼 孝泰(麻酔)

関根 秀介(集中治療, 麻酔)

板橋 俊雄(麻酔)

安藤 千尋(麻酔, 心臓麻酔)

濱田 隆太(麻酔)

横山 雄樹(麻酔)

石田 裕介(麻酔)

魚島 直美(麻酔)

齊木 巖(麻酔)

崔 英姫(麻酔)

鈴木 直樹(麻酔, 小児麻酔)

山田 梨香子(麻酔)

山本 亜矢(麻酔, 心臓麻酔)
鎌田 早紀(麻酔)

認定病院番号 28

特徴:

麻酔, ペインクリニック, 集中治療, 緩和医療の領域を幅広く学ぶ事が出来る.

② 専門研修連携施設A

● 東京医科大学八王子医療センター

研修プログラム統括責任者: 輪嶋善一郎

専門研修指導医: 輪嶋 善一郎(麻酔)

杉 正俊(麻酔)

岩瀬 直人(麻酔、ペイン)

富野 美紀子(麻酔、心臓麻酔)

前田 亮二(麻酔)

大嶽 宏明(麻酔)

奥山 亮介(麻酔)

認定病院番号 203

特徴: 心臓血管手術を含め多様な症例を経験できる。特に、生体腎移植、生体肝移植など移植医療の麻酔を経験できる。

● 東京医科大学茨城医療センター

研修プログラム統括責任者: 室園 美智博

専門研修指導医: 室園 美智博(麻酔, ペインクリニック)

沖田 綾乃(麻酔)

認定病院番号 172

特徴:

茨城県南部における急性期中核病院であり、「がん」、「総合救急」、「高齢者・機能障害者」、「小児・周産期」の4つの分野の充実を図っている。それらに応じた手術を中心に、小児麻酔、整形外科麻酔、呼吸器外科麻酔、脳神経外科麻酔を含めた麻酔研修、重症患者に対する集中治療、地域における救急医療の研修を行う。

● 順天堂大学医学部附属順天堂医院(以下, 順天堂医院)

研修実施責任者: 稲田 英一

専門研修指導医: 稲田 英一

西村 欣也(小児麻酔)

林田 眞和(心臓血管外科麻酔)
井関 雅子(ペインクリニック、緩和ケア)
佐藤 大三(麻酔全般、集中治療)
角倉 弘行(産科麻酔)
水野 樹
石川 晴士(胸部外科麻酔)
三高 千恵子(集中治療)
川越 いづみ(呼吸器外科麻酔)
竹内和世
原 厚子(脳神経外科麻酔)
工藤 治
千葉 聡子(ペインクリニック)
山本 牧子(心臓血管外科麻酔)
掛水 真帆(心臓血管外科麻酔)
井上 理恵(産科麻酔)
門倉 ゆみ子
専門医: 片岡 久実
濱岡 早枝子(ペインクリニック)
河合 愛子(ペインクリニック)
岡原 祥子
竹郷 笑子
安藤 望
福田 征孝
河内 山幸
高野 真美

麻酔科認定病院番号 12

特徴:

手術麻酔全般のほか、ペインクリニック、緩和ケア、集中治療のローテーションも可能である。

● 千葉大学医学部附属病院(以下、千葉大学本院)

研修プログラム統括責任者:磯野史朗

専門研修指導医:磯野 史朗(学会指導医, 麻酔, 睡眠医療, 呼吸生理, 気道管理)

石川 輝彦(学会指導医, 麻酔, 呼吸生理, 気道管理)

田口 奈津子(学会指導医, 麻酔, 緩和ケア, ペインクリニック)

鐘野 弘洋(学会指導医, 麻酔, 緩和ケア, ペインクリニック)

岡崎 純子(学会指導医, 麻酔, 心臓麻酔)
北村 祐司(学会指導医, 麻酔, 小児麻酔)
水野 裕子(学会専門医更新, 麻酔, 緩和ケア, ペインクリニック)
佐藤 晋(学会指導医, 麻酔)
専門医: 篠原 彩子(学会専門医, 麻酔, 産科麻酔)
齊藤 溪(学会専門医, 麻酔)
孫 慶淑(学会専門医, 麻酔, 心臓麻酔)
奥山 めぐみ(学会専門医, 麻酔, 心臓麻酔)
菅沼 絵美里(学会専門医, 麻酔, 心臓麻酔)
栃木 知子(学会専門医, 麻酔)
波照間 友基(学会専門医, 麻酔)
加藤 辰一郎(学会専門医, 麻酔)
石橋 克彦(学会専門医, 麻酔)
國分 宙(学会専門医, 麻酔)
吉村 晶子(学会専門医, 麻酔)
井出 旭(学会専門医, 麻酔)
坂口 雄一(学会専門医, 麻酔)
林田 泰一郎(学会専門医, 麻酔)
村松 隆宏(学会専門医, 麻酔)

認定病院番号 37

特徴:

大学病院として一般病院では経験できない最先端手術, 侵襲の大きな手術や重篤な合併症を持つ患者さんの麻酔管理がほとんどで, 臨床医としての実力をつけるには十分な症例が経験できる. 心臓麻酔や小児麻酔, 産科麻酔などの特殊麻酔も専門施設以上の研修が可能である. さらに, 当教室の緩和ケア病棟で全人的に患者と向き合い, 症状治療の重要性を学ぶこともできる. また, 大学院生として臨床研究を行いながら麻酔科研修ができるのも大きな特徴である. 研修期間中に手術麻酔, ペインクリニック, 緩和医療の十分な臨床経験を積む. 通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え, 下記の特種麻酔の担当医として本プログラム割り当て件数内で可能な限り経験する.

● 東京女子医科大学病院

研修プログラム統括責任者:野村 実 (麻酔)

専門研修指導医:野村 実 (麻酔)

尾崎 眞 (麻酔, 集中治療)

樋口 秀行(麻酔, ペインクリニック)

尾崎 恭子(麻醉)
黒川 智 (麻醉)
深田 智子(麻醉)
岩出 宗代(麻醉, ペインクリニック)
近藤 泉 (麻醉)
横川 すみれ(麻醉)
濱田 啓子(麻醉)
畔柳 綾 (麻醉, ペインクリニック)
庄司 詩保子(麻醉)
岩田 志保子(麻醉)
鎌田 ことえ(麻醉)
佐久間 潮里(麻醉)
土井 健司(麻醉)
中澤 圭介(麻醉)
永井 美玲(麻醉)
楠田 理絵(麻醉)
石川 高(麻醉)
野村 岳志(集中治療)
中川 雅史(集中治療)
石川 淳哉(集中治療)
清野 雄介(集中治療)
岩淵 雅洋(集中治療)
佐藤 暢夫(集中治療)

専門医:

久米恵子(麻醉)
古井 郁恵(麻醉)
神谷 雅(麻醉)
藤田 貴子(麻醉)
小林 真之(麻醉)
有吉 史美子(麻醉)
長谷川 晴子(麻醉)
大野 公美(麻醉)
廣岡 慧子(麻醉)
神谷 岳史(麻醉)
浅野 麻由(麻醉)

出井 真史(集中治療)

西周 祐美(集中治療)

認定病院番号 32

特徴:豊富な症例数を背景とした包括的な麻酔研修ならびにICU・ペインクリニック・緩和の研修も可能. 特に心臓麻酔研修、臓器移植の麻酔を多く学べます.

● 戸田中央総合病院

研修プログラム統括責任者:石崎 卓

専門研修指導医:石崎 卓(麻酔)

畑山 聖(麻酔, 集中治療)

工藤 良平(麻酔)

認定病院番号:587

特徴:

埼玉県南部地域における急性期中核病院である. 小児麻酔, 心臓外科麻酔, 呼吸器外科麻酔, 脳神経外科麻酔, 移植外科麻酔を含めた総合的な麻酔研修を行うとともに, 重症患者に対する集中治療, 及び, 地域における救急医療の研修を行う.

③ 専門研修連携施設B

● 熊本大学医学部附属病院(以下, 熊本大学病院)

研修プログラム統括責任者:山本 達郎

専門研修指導医:山本 達郎(麻酔, ペインクリニック)

杉田 道子(麻酔, ペインクリニック)

田代 雅文(麻酔, ペインクリニック)

生田 義浩(麻酔)

鷺島 克之(麻酔, 集中治療)

成松 紀子(麻酔, 集中治療)

洲崎 祥子(麻酔, ペインクリニック、緩和医療)

江嶋 正志(麻酔, 集中治療)

隈元 泰輔(麻酔)

小松 修治(麻酔)

野中 崇広(麻酔)

専門医: 石村 達弘(麻酔)

小林 加織(麻酔)

磯部 直史(麻酔)

矢津田 麻里(麻酔)

林田 裕美(麻酔)

梶原 那美恵(麻酔)
徳永 祐希子(麻酔)
柚留 木朋子(麻酔)
平岡 知江子(麻酔)
井上 由季子(麻酔)
吉田 拓二(麻酔)
山田 美咲(麻酔)
林 正清(麻酔)
鳥崎 哲平(麻酔)

認定病院番号:34

特徴:

ペイン, 集中治療のローテーション可能.

● 国立循環器病研究センター

研修プログラム統括責任者:大西 佳彦

専門研修指導医:大西 佳彦(心臓麻酔)

吉谷 健司(心臓麻酔, 脳外科麻酔)

金澤 裕子(心臓麻酔)

南 公人(集中治療)

前田 琢磨(輸血管理)

専門医: 濱口 英佑(心臓麻酔)

前川 真基(心臓麻酔)

月永 晶人(心臓麻酔)

下川 亮(心臓麻酔)

矢作 武蔵(心臓麻酔)

宮崎 絵里香(心臓麻酔)

佐藤 仁信(心臓麻酔)

認定病院番号:168

特徴:

心臓大血管手術の症例数が多いことが特徴です。2018年は1208症例の心臓大血管手術症例がありました。弁手術はダビンチロボット手術による僧帽弁形成術, 小切開大動脈弁置換術, 人工心肺を使用しない冠動脈バイパス術など低侵襲手術が増加しています。反対に重症心不全に対する左室補助装置装着術や心臓移植術, 大動脈解離に対する緊急弓部グラフト置換術などリスクの高い症例も多くあります。カテーテル治療としてハイブリッド手術室でカテーテル大動脈弁置換術や僧帽弁形成術, 大動脈ステント留置術が多く施行されていま

す。脳血管外科手術症例、産科症例も多く施行されています。小児心臓手術や新生児姑息術も多く施行されています。

● 国立成育医療研究センター

研修実施責任者:鈴木 康之

専門研修指導医:鈴木 康之(小児麻酔・集中治療)

田村 高子(小児麻酔・緩和医療)

糟谷 周吾(小児麻酔)

遠山 悟史(小児麻酔)

佐藤 正規(産科麻酔)

蜷川 純(小児麻酔)

専門医: 山下 陽子(産科麻酔)

行正 翔(小児麻酔)

古田 真知子(小児麻酔)

橋谷 舞(麻酔)

麻酔科認定病院番号:87

特徴:

- ・国内最大の小児・周産期施設であり、胎児、新生児、小児、先天性疾患の成人麻酔、産科麻酔(無痛分娩管理を含む)および周術期管理を習得できる。
- ・国内最大の小児集中治療施設を有し、小児救急疾患・重症疾患の麻酔・集中治療管理を習得できる。
- ・小児肝臓移植(生体、脳死肝移植)、腎移植の麻酔、周術期管理を習得できる。
- ・小児がんセンターがあり、小児緩和医療を経験できる。
- ・臨床研究センターによる臨床研究サポート体制があり研究環境が整っている。

● 小山記念病院

研修プログラム統括責任者:田上 恵

専門研修指導医:田上 恵

近江 明文

認定病院番号:1430

特徴:

地域の中核的医療施設で、産婦人科・整形外科・脳外科の手術症例が豊富。

● 埼玉県立小児医療センター

研修プログラム統括責任者:蔵谷 紀文

専門研修指導医:蔵谷紀文(麻酔・小児麻酔)

濱屋 和泉(麻酔・小児麻酔)
佐々木 麻美子(麻酔・小児麻酔)
大橋 智(麻酔・小児麻酔)
石川 玲利(麻酔・小児麻酔)
石田 佐知(麻酔・小児麻酔)
駒崎 真矢(麻酔・小児麻酔)

認定病院番号 399

特徴:

- ・研修者の到達目標に応じて、小児麻酔・周術期管理の研修かが可能です。
- ・日本麻酔科学会の教育ガイドラインに準拠した教育を行っています。
- ・多くの麻酔科専門医研修プログラムと連携しています。
- ・スタッフは臨床研修指導医講習会を順次受講して、研修医に対する適切な指導力を身につけるようにしています。
- ・新生児麻酔，心臓麻酔，区域麻酔など，小児麻酔のサブスペシャリティ領域に高い専門性を持つ指導者がいます。
- ・北米の小児病院への臨床留学経験者による留学希望者へのアドバイスをしています。
- ・希望者には公衆衛生学修士(MPH)による臨床研究立案，実行，データ解析，論文執筆のアドバイスを行います。

● 自治医科大学附属病院

研修プログラム統括責任者:竹内 護

専門研修指導医:竹内 護(小児麻酔, 心臓麻酔)

布宮 伸(集中治療, 鎮静)

五十嵐 孝(ペインクリニック, 硬膜外内視鏡)

多賀 直行(小児麻酔, 小児集中治療)

佐藤 正章(蘇生学, 医学教育)

堀田 訓久(エコーガイド下ブロック, 創部浸潤麻酔)

門崎 衛(心臓麻酔)

丹羽 康則(手術室運営, 周術期管理)

清水 かおり(神経麻酔)

平 幸輝(術後鎮痛, 周術期管理),

方山 加奈(麻酔)

吉積 優子(麻酔)

島田 宣弘(ペインクリニック, 緩和)

永川 敦士(心臓麻酔)

永野 達也(小児麻酔, 小児集中治療)

篠原 貴子(小児麻酔)
竹内 端枝(緩和)
専門医: 杉本 健三郎(心臓麻酔)
芝 順太郎(移植麻酔)
須藤 智幸(麻酔全般)
菊地 紘彰(麻酔全般)
山本 令子(麻酔全般)

認定病院番号 105

特徴:

自治医科大学附属病院には、全国初の大学病院併設型小児病院であるとちぎ子ども医療センターが隣接し、麻酔科は両施設の症例を共同で担当している。そのため通常の小児症例に加えて、全国的に実施施設の少ない小児生体肝移植や小児泌尿器手術などは遠方からの紹介症例も多い。また当院が位置する北関東地域は人口当たりの医療施設が比較的少なく、広範囲から多様な患者を受け入れている。その結果、対象患者は新生児から高齢者まで幅広く、また症例も common な疾患から重症・希少な症例までを、基幹施設で経験できることが当院の特色である。

● 自治医科大学附属さいたま医療センター

研修プログラム統括責任者: 讃井 将満

専門研修指導医: 讃井 将満(集中治療)

大塚 祐史(麻酔・心臓手術麻酔)

飯塚 悠祐(麻酔・集中治療)

松野 由衣(麻酔・ペイン)

後藤 卓子(麻酔・緩和ケア・ペイン)

瀧澤 裕(緩和ケア・ペイン)

認定病院番号 961

特徴:

- ・独立型ICUへのローテーション可能。
- ・豊富な心臓大血管手術、呼吸器外科手術症例。

● 立川総合病院

研修実施責任者: 桑原 淳

専門研修指導医: 桑原 淳(麻酔)

認定病院番号 1469

特徴: 心臓血管手術の症例が豊富で、心臓血管麻酔および経食道エコーの研修が可能。

● **西東京中央総合病院**

研修実施責任者:西山 隆久

専門研修指導医:西山 隆久(麻酔)

認定病院番号 1535

特徴:

整形外科領域の周術期神経ブロック症例が豊富.

● **ニューハート・ワタナベ国際病院**

研修実施責任者:宮田 和人

専門研修指導医:宮田 和人(心臓麻酔・集中治療)

専門医: 重松 明香(心臓麻酔・集中治療)

認定病院番号 1727

特徴:

成人心臓手術に特化した病院で, ロボット支援下心臓手術を行っている日本でも数少ない施設.

● **三井記念病院**

研修プログラム統括責任者:寺嶋 克幸

専門研修指導医:寺嶋 克幸(麻酔一般,DAM,中心静脈穿刺セミナー,鎮静セミナー,神経ブロック,医療安全)

大野 長良(心臓麻酔, 集中治療)

横塚 基(心臓麻酔, 人工心肺,麻酔一般)

和田 浩輔(心臓麻酔, 麻酔一般, 神経ブロック)

甫母 章太郎(麻酔一般,神経ブロック)

坪光 祥晃(心臓麻酔,集中治療)

阿久津 麗香(小児麻酔,麻酔一般)

小林 秀嗣(集中治療,麻酔一般)

宇山 裕也(麻酔一般)

平松 瑠奈(麻酔一般)

千葉 峻士(心臓麻酔,麻酔一般)

大槻 達郎(心臓麻酔,麻酔一般)

本田 香織(麻酔一般)

認定病院番号 68

特徴:

心臓血管麻酔や呼吸器外科麻酔の歴史が古く、この分野では先進的医療も行われている。透析患者や循環器疾患の合併をもつ患者が多い。蘇生能力は、新生児から成人患者までを習得する。

● 松波総合病院

研修実施責任者:松波 紀行

専門研修指導医:松波 紀行(麻酔, ペインクリニック)

江崎 善保(麻酔)

橋本 慎介(麻酔)

田中 亜季(麻酔, 集中治療)

小島 明子(麻酔, 集中治療)

認定病院番号 480

特徴:

地域医療支援病院. 緩和ケアチームに参加可能.

● 山形大学医学部附属病院

研修プログラム統括責任者:川前 金幸

専門研修指導医:川前 金幸

岡田 真行

山川 真由美

飯澤 和恵

鈴木 博人

専門医: 秋元 亮

成澤 あゆ香

森谷 真知佳

栗原 一貴

渡邊 具史

八島 望

松浦 優

中村 直久

高橋 菜々子

宇賀神 のりえ

豊島 歩美

認定病院番号 133

特徴:

ペイン, 集中治療のローテーション可能.

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに(2019年9月ごろを予定)志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、東京医科大学麻酔科専門研修プログラムwebsite, 電話, e-mail, 郵送のいずれの方法でも可能である。

東京医科大学病院 麻酔科秘書 嶋田寛子 プログラム担当 柿沼孝泰

東京都新宿区西新宿6-7-1

TEL 03-3342-6111 (内5811)

E-mail hshimada@tokyo-med.ac.jp

kakitaka@tokyo-med.ac.jp

Website <http://team.tokyo-med.ac.jp/masui/index.html>

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果(アウトカム)

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた1)臨床現場での学習、2)臨床現場を離れた学習、3)自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修2年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA3度の患者の周術期管理やASA1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修3年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修4年目

3年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

9. 専門研修の評価(自己評価と他者評価)

① 形成的評価

- 研修実績記録:専攻医は毎研修年次末に、**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック:研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、**研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかが修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止・中断, 研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき, 研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は, 連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく, 休止期間が連続して2年を越えていなければ, それまでの研修期間はすべて認められ, 通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は, それまでの研修期間は認められない。ただし, 地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については, 卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は, 研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については, 専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合, 研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は, やむを得ない場合, 研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元, 移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて, 日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には, 地域医療の中核病院としての, 東京医科大学茨城医療センター(茨城県), 埼玉県立小児医療センター(埼玉県), 松波総合病院(岐阜県), 戸田中央総合病院(埼玉県), 千葉大学医学部附属病院(千葉県), 山形大学医学部附属病院(山形県), 立川総合病院(新潟県)など, 幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し, 適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため, 専攻医は, 大病院だけでなく, 地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い, 当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

14. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境(設備, 労働時間, 当直回数, 勤務条件, 給与なども含む)の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価(Evaluation)も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導する。